THE CHEMICAL DAILY 2014年(平成26年) 9月 1日(月曜日) (土・日・祝日

化學工業日報

タイ特集

13～36面

泰国化成品

全社の力結集し「面」展開

ナヴァラート・チノミ社長

化成品商事は、1973年からタイに駐在員を置き、1989年に現地法人である泰国化成品（TKC）を設立した。現在、TKC本社はバンコク市内スクンビットソイ23のジャスミンシティーにあり、チュラロンコン大学出身のナヴァラート・チノミが社長、3名の日本人と40名のタイ人社員がいる。取扱品目は徐々に拡大し、ホームケア、パーソナルケア、樹脂・ウレタン、染料・顔料、建設・農業関連等多岐に亘っている。

30年の歴史を持つ同社の強みは、タイに根差した広範なネットワークにあり、売上高の約70%を東南アジアのローカル企業が占めている。またエンドユーザーとの直接取引が約80%で、バンコク郊外に3800平方㍍に及ぶ自社倉庫（危険物取扱可能）と6台の輸送車両を保有しており、顧客への迅速な製品供給や、細やかな情報を収集できる体制を構築している。昨年の売上高は約8億4000万㌭、営業利益は2300万㌭、自己資本比率は31%となっている。

近年、東南アジアでの事業拡大を検討している日本の中堅企業が増えているなかで、その支援のため7月に若手日本人社員を1名増員。また8年間駐在しタマサート大学のMBAを取得した30代の日本人社員を、4月から2カ月間隔でタイと日本を往復させている。東南アジアでの事業拡大を検討しているお客様のお手伝いをする「日本と東南アジアのビジネスを結ぶ架け橋」となることが目的だ。化成品商事は4月から海外事業支援チームを立ち上げた。TKCとも連携しながら、従来の製品ごとの「点と線」から、全社の力を結集した「面」での事業拡大を目指している。

THE CHEMICAL DAILY 2014年(平成26年) 9月 1日(月曜日) (土・日・祝日

化學工業日報

タイ特集 13～36面

TKSインダストリアル

少量多品種の対応に強み

江川徳和 社長

化成品商事は、タイに泰国化成品（商社機能）のほかにTKSインダストリアルというメーカー機能を有する関係会社を持っている。アジア通貨危機前年の1996年に立ち上げた会社で、バンコク隣県のサムットプラカーン県に位置し（バンコク市内から車で約1時間）、エラストマータイプのウレタン成型品を製造している。

TKSインダストリアルの工場敷地面積は約1125平方㍍。社長はタイとミャンマーの2カ国の大学で留学経験を持ち東南アジアに造詣の深い江川徳和、従業員は8月現在40名。昨年の売上高は約9000万㌭、営業利益は1300万㌭、自己資本比率は84%となっている。

主な生産品目は、エスカレーター・エレベーターのウレタン部品、プレスマシンのクッション部品、バーレル研磨機の内張り緩衝材、各種ウレタンローラーなど。大量生産はもちろん、少量多品種の対応を得意とし、タイ国内をはじめ、ミャンマーやベトナム、シンガポールなどASEAN周辺国のほか、最近はメキシコとも取引がある。

日本的なマネジメントと蓄積された確かな技術、現地で培われた工場運営ノウハウがうまく融合しており、誠実で丁寧な対応には定評がある。取引先からの信用度も抜群で、今後さらに一体化するASEAN経済圏としての発展とともに、大いに成長が期待できる会社である。

化成品商事はその長期ビジョンに掲げる企業像として、「日本および東・東南アジアにおいて商社機能を中核にニッチな製造機能・サービス機能を有する個性豊かな企業集団」を目指しており、同社はその重要な一翼を担っている。

THE CHEMICAL DAILY
2014年(平成26年) 9 月 1 日(月曜日) (土・日・祝日

化學工業日報

タイ特集

13～36面

化成品商事はＴＫＳインダストリアルというメーカーをタイに有し各種ウレタン部品を生産している